

はじめに

「環境保全」を大切な理念の一つとして取り上げられ、環境に負荷をかけない「エシカル（環境保全や社会貢献に配慮する）」な大会を目指し開催された2021東京オリンピック、パラリンピック。その中で、回収したパソコンやスマートフォン等の廃棄物から金属をリサイクルし、選手に与えられる金・銀・銅メダルを製造され、選手村では段ボールベットを採用するといったことが行われました。「環境保全について考えること」は、環境問題が深刻化していく今、一人ひとりが地球環境の現状や課題、対策を知り、その上で身近な問題として考え実践していく人づくりにつながっていきます。小学校学習指導要領解説総則編においては、「自然環境や資源の有限性等の中で持続可能な社会をつくる力」が示されています。滋賀県教育委員会では、「学校教育の指針」において、滋賀の学校教育の重点に「環境教育の推進」を位置づけています。また滋賀県では、令和3年に第4次滋賀県環境学習推進計画が策定され、基本目標「地域を愛し、自ら行動できる人育てによる、『いのち』がつながる持続可能な社会づくり」を掲げています。滋賀の豊かな自然や琵琶湖等の身近な環境等に関心を持ち、これらの環境に対する人としての責任と役割を理解し、環境にやさしい生活や地域の環境保全活動等に対する積極的な行動と、環境に配慮した生き方が重要と考えています。

また、滋賀県は自然と共に暮らす独自の生活文化が残る等、環境学習の教材として非常に優れた文化や伝統が、県内各地に息づいています。学校現場においても、地域に根ざした環境学習の取組を大事にしなが、身近な琵琶湖や河川、森、林などでの生物調査や学校生活における省エネルギーやリサイクル等の学習に取り組んでいます。これらを踏まえ、環境教育を学校教育全体で進めていくためには、「カリキュラム・マネジメント」に努めていく必要があります。

長浜市では、昭和62年に環境に関心をもち、身近な問題解決に向けた地域づくりのリーダーを育成することを目的として、長浜市水生生物少年少女調査隊「みずすまし」が結成され、本年度で35年の実績を積み重ねてきています。一方世界では、SDGsの取組が加速し、持続可能な社会の実現に向けて、主体的に行動できる子どもたちの育成が求められています。このような中で地域の身近な環境学習が、自然理解や環境問題を自分事として考え、行動できる人材の育成につながる大事な取組、歩みであると考えています。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ICTを活用し、代表校による「交流会」を7月にオンラインで開催することができました。各校の発表は、アイデアに溢れ、自分たちで調べ観察したことや感じたことをわかりやすくまとめ、工夫された発表でした。長浜市の各地域の自然環境に関心を高め、地域の自然にふれ合いつながることで、環境を大切にしていこうとする主体的な気持ちを育むことができた、有意義な交流会となりました。

結びとなりますが、ここに『子どもたちが調べる水辺の生き物～長浜市水生生物少年少女調査隊「みずすまし」調査報告書～』として活動報告をまとめることができました。是非ご一読いただき、各校での環境教育の推進にお役立ていただければ幸いです。また、長浜市水生生物少年少女調査隊の諸活動に際しまして、保護者・地域の皆様、水生生物調査指導の講師の皆様、長浜市環境保全課の皆様には、多大なご支援ご協力を賜りましたことに厚くお礼申し上げます。

令和4年3月

長浜市水生生物少年少女調査隊指導者連絡会
代表 金森房枝

長浜市水生生物少年少女調査隊「みずすまし」について

私たちの住んでいる長浜市は、日本一大きな湖「琵琶湖」のほとりにあります。私たちは、琵琶湖から汲み上げられた水、地下水、伏流水などを毎日利用しています。

家のまわりや遊び場、学校への行き帰りの道沿いには川が流れ、そのすべてが琵琶湖に通じています。川の水がきれいであることは、琵琶湖がきれいであることにもつながります。しかし、川の水が汚れていると、琵琶湖も汚れてしまいます。

私たちの暮らしと地域を流れる川、そして琵琶湖はとても密接な関係で結ばれています。川をきれいにするのも汚すのもそこに住む私たちの暮らし方しだいなのです。

■活動の目的

子どもたちが川で遊び、楽しみながら川の中にすむ生き物を調べることによって、川の実態を知り、環境を見る目を養い、身近な環境への関心を高め、環境づくり活動のリーダーを育成することが目的です。

■組織の概要

長浜市水生生物少年少女調査隊「みずすまし」は昭和62年に結成し、長浜市から河川の調査を受託しています。

毎年、市内小学校（今年度より義務教育学校を含む）の児童を対象に隊員を公募し、各小学校の同調査隊の指導教諭（長浜市水生生物少年少女調査隊指導者連絡会）が活動を指導しています。

平成19年度から浅井・びわ地域の小学校、平成23年度からは虎姫・湖北・高月・木之本・余呉・西浅井地域の小学校が新たに参画し、第35期目にあたる令和3年度は、23校468人の隊員と36人の教諭が長浜市内各地で河川の調査を行っています。

調査隊結成以来、令和3年度で延べ8,436人の児童が調査を実施しました。

■活動のねらい

子どもたちが自ら川に入り調査し、素直な目で川の実態を知ることで、川を汚さない行動や自然を大切にする子どもたちを育てます。

また、これらの活動を広く知っていただくことにより、川を汚さない・自然を大切にする行動が市民全体へと波及することをねらいとしています。

■活動の概要

川の中やその周りにはいろんな種類の生き物がすんでいます。川の汚れ具合によってその川にすむ生き物の種類が違います。きれいな川にはきれいな水を好む生き物が、汚れている川には汚れに強い生き物がすんでいます。

そこで、隊員たちは学校区内の川に入って、そこにすんでいる生き物の種類や数を調べて、その川の汚れ具合を判定しています。

また、普段の生活や活動を通じて身近な環境について気づいたことや感じたことを「環境日記」につけています。

■第35期（令和3年度）活動内容・参加内容

1. 水生生物調査（詳しくは、4ページ以降）

小学校ごとに校区内の河川の調査ポイントを調査しました。川の生き物の種類や数などを調べて川の汚れ具合の調査などを実施しました。

2. 長浜市水生生物少年少女調査隊「みずすまし」指導者研修会（詳しくは、117ページ）

水生生物調査の指導の仕方や採取方法について、湖北野鳥センター植田潤主幹による説明をオンライン上の動画で各自視聴し研修を実施しました。

3. 長浜市水生生物少年少女調査隊「みずすまし」交流会（詳しくは、118ページ以降）

日時 令和3年7月28日（水）9：00～11：30

発表校 7校

参加者 隊員76名のほか、指導教諭・来賓等を含めて92名

内容 各校の隊員がオンライン上で集い、学校ごとに前期の活動報告や隊員による自己紹介、調査報告などを発表しました。

4. 「子どもたちが調べる水辺の生き物」調査報告書の発行

以上（1.～3.）の活動結果等を取りまとめ、調査報告書（本書）として発行しました。